様式第２号の１－②【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の１－①を用いること。

学校名	名古屋 ECO 動物海洋専門学校
設置者名	学校法人　滋慶コミュニケーションアート

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
専門課程	エコ・コミュニケーション科（昼間Ⅰ部）	夜・通信	1140	160 時間	
	エコ・コミュニケーション科（昼間Ⅱ部）	夜・通信	1140	160 時間	
	動物医療科	夜・通信	1500	240 時間	
	エコ・スペシャリスト科	夜・通信	2040	320 時間	
（備考）					

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.nagoya-eco.ac.jp/school/public_info/index.html

３．要件を満たすことが困難である学科

学科名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	名古屋 ECO 動物海洋専門学校
設置者名	学校法人　滋慶コミュニケーションアート

１．理事（役員）名簿の公表方法

https://www.nagoya-eco.ac.jp/school/public_info/index.html

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	株式会社　取締役会長	2023.4.1　～ 2026.3.31	地域との連携
非常勤	株式会社　代表取締役	2023.4.1　～ 2026.3.31	経営分析
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	名古屋 ECO 動物海洋専門学校
設置者名	学校法人　滋慶コミュニケーションアート

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） 授業計画は、養成目的と到達目標を鑑み毎年見直しを図っています。見直しにあたっての基準として社会ニーズの変化や年２回開催される教育課程編成委員会の意見等を参考にしています。 学生には授業計画を学生便覧にまとめて 4 月上旬に説明をしたうえ、ホームページにて公表。	
授業計画書の公表方法	https://www.nagoya-eco.ac.jp/school/public_info/index.html
２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）
定期試験（実技、筆記、レポート等）の成績により学修成果の評価を行ない、認定している。評価は「S～D」で行ない、C以上を合格とします。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）
・評価分布の判断は「ＧＰＡ」制度を活用し、下位４分の１の学生を割り出している。
点数 100～90 点＝A 評価（GP=4.0）
点数　89～80 点＝B 評価（GP=3.0）
点数　79～70 点＝C 評価（GP=2.0）
点数　69～60 点＝D 評価（GP=1.0）
点数　59 点以下＝F 評価（GP=0.0）

・ＧＰＡ＝（当該科目の単位数×各授業で得たＧＰの合計）／（当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計

客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.nagoya-eco.ac.jp/school/public_info/index.html

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）
学生便覧にて卒業認定要件を示し、卒業認定会議で学校長の確認・決定のうえ、認定をしている。
（進級及び卒業）
所定の授業日数の３分の１以上欠席した者は、進級又は卒業することができない。
ただし、各学年において欠席日数が出席すべき日数の３分の１以内であっても、各学科目及び実習にかかる出席時間数が所定の時間に満たない者は、補習を受けなければ進級又は卒業することができない。

（成績評価 ）
1. 各科目について出席率、授業態度、臨時及び定期試験の成績、レポート並びに課題の成績を総合的に勘案し、次項に定める 5 段階評価とする。
2. S･A･B･C を合格とし、D を不合格とする。
S...100～90 点
A... 89～80 点
B... 79～70 点
C... 69～60 点
D... 59～ 0 点－不合格

（卒業・進級判定基準】
卒業・進級の判定基準は以下の通りとする。
１．各年次総 855 時間（57 単位）以上を取得した者は進級・卒業することができる。
２．上記１に該当する者は卒業・進級判定会議により最終決定する。
３．卒業認定については 2 年次 1710 時間（114 単位）3 年次 2565 時間（171 単位）4 年次 3420 時間（228 単位）以上必要となる

卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.nagoya-eco.ac.jp/school/public_info/index.html

様式第２号の４－②【⑷財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の４－①を用いること。

学校名	名古屋 ECO 動物海洋専門学校
設置者名	学校法人　滋慶コミュニケーションアート

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.nagoya-eco.ac.jp/school/public_info/index.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.nagoya-eco.ac.jp/school/public_info/index.html
財産目録	https://www.nagoya-eco.ac.jp/school/public_info/index.html
事業報告書	https://www.nagoya-eco.ac.jp/school/public_info/index.html
監事による監査報告（書）	https://www.nagoya-eco.ac.jp/school/public_info/index.html

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	専門課程	エコ・コミュニケーション科（昼間Ｉ部）	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	1500 単位時間	1020 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			2,520 単位時間				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
240 人	306 人	1 人	7 人	65 人	72 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画は、養成目的と到達目標を鑑み毎年見直しを図っています。見直しにあたっての基準として社会ニーズの変化や年２回開催される教育課程編成委員会の意見等を参考にしています。 学生には授業計画を学生便覧にまとめて 4 月上旬に説明をしたうえ、ホームページにて公表。
成績評価の基準・方法
（概要） ・評価分布の判断は「ＧＰＡ」制度を活用し、下位 4 分の 1 の学生を割り出している。 点数 100～90 点＝A 評価（GP=4.0） 点数　89～80 点＝B 評価（GP=3.0） 点数　79～70 点＝C 評価（GP=2.0） 点数　69～60 点＝D 評価（GP=1.0）

点数　59 点以下＝F 評価（GP=0.0）
・ＧＰＡ＝（当該科目の単位数×各授業で得たＧＰの合計）／（当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計）

卒業・進級の認定基準

（概要）
学生便覧にて卒業認定要件を示し、卒業認定会議で学校長の確認・決定のうえ、認定をしている。
（進級及び卒業）
所定の授業日数の３分の１以上欠席した者は、進級又は卒業することができない。
ただし、各学年において欠席日数が出席すべき日数の３分の１以内であっても、各学科目及び実習にかかる出席時間数が所定の時間に満たない者は、補習を受けなければ進級又は卒業することができない。

（成績評価 ）
1. 各科目について出席率、授業態度、臨時及び定期試験の成績、レポート並びに課題の成績を総合的に勘案し、次項に定める 5 段階評価とする。
2. S･A･B･C を合格とし、D を不合格とする。
S...100～90 点
A... 89～80 点
B... 79～70 点
C... 69～60 点
D... 59～ 0 点－不合格

（卒業・進級判定基準】
卒業・進級の判定基準は以下の通りとする。
１．各年次総 855 時間（57 単位）以上を取得した者は進級・卒業することができる。
２．上記１に該当する者は卒業・進級判定会議により最終決定する。
３．卒業認定については 2 年次 1710 時間（114 単位）3 年次 2565 時間（171 単位）4 年次 3420 時間（228 単位）以上必要となる

学修支援等

（概要）
担任などの教職員が教育・就職・学費・学校生活のあらゆる面において支援を実施しています。また、担任が学生との定期的に個別面談を実施し、学修状況や要支援事項の確認を行ない、必要に応じて保護者とも連携しています。本校ではスチューデントサービスセンターを設け、専門カウンセラーを配置し、学修に対して困難な学生をサポートしている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
144 人 （100%）	1 人 （ 0.7%）	138 人 （ 95.8%）	5 人 （ 3.5%）

（主な就職、業界等）
動物園、牧場、ペットショップ、ペットサロン、動物病院、訓練所等

（就職指導内容） 1 年後期に「就職ガイダンス」授業を配置。学校主催の合同企業説明会を開催。 1 年春休みから随時インターンシップ。担任と就職担当の個別面談、履歴書添削、面接練習等。
（主な学修成果（資格・検定等）） COM グルーミング検定　コミュニケーションスキルアップ検定
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
303 人	13 人	4.3%
（中途退学の主な理由） 経済的理由　進路変更　病気治療　学生生活不適合等		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度　三者面談　SSC（スチューデントサービスセンター） 個人面談　学費相談（分納・延納納入）　補習　課題提出		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士
文化・教養		専門課程	エコ・コミュニケーション科（昼間Ⅱ部）		○		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	1500 単位時間	1020 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			2,520 単位時間				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
160 人	173 人	0 人	7 人	65 人	72 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画は、養成目的と到達目標を鑑み毎年見直しを図っています。見直しにあたっての基準として社会ニーズの変化や年２回開催される教育課程編成委員会の意見等を参考にしています。 学生には授業計画を学生便覧にまとめて 4 月上旬に説明をしたうえ、ホームページにて公表。
成績評価の基準・方法
（概要） ・評価分布の判断は「ＧＰＡ」制度を活用し、下位 4 分の 1 の学生を割り出している。 点数 100～90 点＝A 評価（GP=4.0） 点数　89～80 点＝B 評価（GP=3.0）

点数　79～70 点＝C 評価（GP=2.0）
点数　69～60 点＝D 評価（GP=1.0）
点数　 59 点以下＝F 評価（GP=0.0）
・ＧＰＡ＝（当該科目の単位数×各授業で得たＧＰの合計）／（当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計）

卒業・進級の認定基準

（概要）
学生便覧にて卒業認定要件を示し、卒業認定会議で学校長の確認・決定のうえ、認定をしている。
（進級及び卒業）
所定の授業日数の３分の１以上欠席した者は、進級又は卒業することができない。ただし、各学年において欠席日数が出席すべき日数の３分の１以内であっても、各学科目及び実習にかかる出席時間数が所定の時間に満たない者は、補習を受けなければ進級又は卒業することができない。

（成績評価 ）
1. 各科目について出席率、授業態度、臨時及び定期試験の成績、レポート並びに課題の成績を総合的に勘案し、次項に定める 5 段階評価とする。
2.　S･A･B･C を合格とし、D を不合格とする。
S...100～90 点
A... 89～80 点
B... 79～70 点
C... 69～60 点
D... 59～ 0 点－不合格

（卒業・進級判定基準】
卒業・進級の判定基準は以下の通りとする。
１．各年次総 855 時間（57 単位）以上を取得した者は進級・卒業することができる。
２．上記１に該当する者は卒業・進級判定会議により最終決定する。
３．卒業認定については 2 年次 1710 時間（114 単位）3 年次 2565 時間（171 単位）4 年次 3420 時間（228 単位）以上必要となる

学修支援等

（概要）
担任などの教職員が教育・就職・学費・学校生活のあらゆる面において支援を実施しています。また、担任が学生との定期的に個別面談を実施し、学修状況や要支援事項の確認を行ない、必要に応じて保護者とも連携しています。本校ではスチューデントサービスセンターを設け、専門カウンセラーを配置し、学修に対して困難な学生をサポートしている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
85 人 （100%）	1 人 （　1.2%）	76 人 （　89.4%）	8 人 （　9.4%）

（主な就職、業界等） 水族館、ペットショップ、アクアショップ、養殖所、ダイビングショップ等
（就職指導内容） 1 年後期に「就職ガイダンス」授業を配置。学校主催の合同企業説明会を開催。 1 年春休みから随時インターンシップ。担任と就職担当の個別面談、履歴書添削、面接練習等。
（主な学修成果（資格・検定等）） 潜水士
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
173 人	4 人	2.3%
（中途退学の主な理由） 経済的理由　進路変更　病気治療　学生生活不適合等		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度　三者面談　SSC（スチューデントサービスセンター） 個人面談　学費相談（分納・延納納入）　補習　課題提出		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士
文化・教養		専門課程	動物医療科		○		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2,700 単位時間	1,800 単位時間	900 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			2,700 単位時間				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
120 人	111 人	0 人	7 人	65 人	72 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 　授業計画は、養成目的と到達目標を鑑み毎年見直しを図っています。見直しにあたっての基準として社会ニーズの変化や年２回開催される教育課程編成委員会の意見等を参考にしています。 学生には授業計画を学生便覧にまとめて 4 月上旬に説明をしたうえ、ホームページにて公表。
成績評価の基準・方法
（概要） ・評価分布の判断は「ＧＰＡ」制度を活用し、下位 4 分の 1 の学生を割り出している。 点数 100～90 点＝A 評価（GP=4.0） 点数　89～80 点＝B 評価（GP=3.0）

点数　79～70 点＝C 評価（GP=2.0）
点数　69～60 点＝D 評価（GP=1.0）
点数　 59 点以下＝F 評価（GP=0.0）
・ＧＰＡ＝（当該科目の単位数×各授業で得たＧＰの合計）／（当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計）

卒業・進級の認定基準

（概要）
学生便覧にて卒業認定要件を示し、卒業認定会議で学校長の確認・決定のうえ、認定をしている。
（進級及び卒業）
所定の授業日数の３分の１以上欠席した者は、進級又は卒業することができない。
ただし、各学年において欠席日数が出席すべき日数の３分の１以内であっても、各学科目及び実習にかかる出席時間数が所定の時間に満たない者は、補習を受けなければ進級又は卒業することができない。

（成績評価 ）
1. 各科目について出席率、授業態度、臨時及び定期試験の成績、レポート並びに課題の成績を総合的に勘案し、次項に定める 5 段階評価とする。
2.　S･A･B･C を合格とし、D を不合格とする。
S...100～90 点
A... 89～80 点
B... 79～70 点
C... 69～60 点
D... 59～ 0 点－不合格

（卒業・進級判定基準】
卒業・進級の判定基準は以下の通りとする。
１．各年次総 855 時間（57 単位）以上を取得した者は進級・卒業することができる。
２．上記１に該当する者は卒業・進級判定会議により最終決定する。
３．卒業認定については 2 年次 1710 時間（114 単位）3 年次 2565 時間（171 単位）4 年次 3420 時間（228 単位）以上必要となる

学修支援等

（概要）
担任などの教職員が教育・就職・学費・学校生活のあらゆる面において支援を実施しています。また、担任が学生との定期的に個別面談を実施し、学修状況や要支援事項の確認を行ない、必要に応じて保護者とも連携しています。本校ではスチューデントサービスセンターを設け、専門カウンセラーを配置し、学修に対して困難な学生をサポートしている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
-人 （100%）	-人 （　　%）	-人 （　　%）	-人 （　　%）

（主な就職、業界等） 動物病院等
（就職指導内容） 2 年後期に「就職ガイダンス」授業を配置。学校主催の合同企業説明会を開催。 3 年春休みから随時インターンシップ。担任と就職担当の個別面談、履歴書添削、面接練習等。
（主な学修成果（資格・検定等）） 愛玩動物看護師
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
72 人	6 人	8.3%
（中途退学の主な理由） 経済的理由　進路変更　学生生活不適合等		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度　三者面談　SSC（スチューデントサービスセンター） 個人面談　学費相談（分納・延納納入）　補習　課題提出		

分野		課程名	学科名			専門士	高度専門士
文化・教養		専門課程	エコ・スペシャリスト科				○
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼	3,600 単位時間	900 単位時間	2,700 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			3,600 単位時間				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
160 人	18 人	0 人	7 人	65 人	72 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画は、養成目的と到達目標を鑑み毎年見直しを図っています。見直しにあたっての基準として社会ニーズの変化や年２回開催される教育課程編成委員会の意見等を参考にしています。 学生には授業計画を学生便覧にまとめて 4 月上旬に説明をしたうえ、ホームページにて公表。
成績評価の基準・方法
（概要） ・評価分布の判断は「ＧＰＡ」制度を活用し、下位 4 分の 1 の学生を割り出している。 点数 100～90 点＝A 評価（GP=4.0）

点数　89～80 点＝B 評価（GP=3.0）
点数　79～70 点＝C 評価（GP=2.0）
点数　69～60 点＝D 評価（GP=1.0）
点数　 59 点以下＝F 評価（GP=0.0）
・ＧＰＡ＝（当該科目の単位数×各授業で得たＧＰの合計）／（当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計）

卒業・進級の認定基準

（概要）
学生便覧にて卒業認定要件を示し、卒業認定会議で学校長の確認・決定のうえ、認定をしている。
（進級及び卒業）
所定の授業日数の３分の１以上欠席した者は、進級又は卒業することができない。
ただし、各学年において欠席日数が出席すべき日数の３分の１以内であっても、各学科目及び実習にかかる出席時間数が所定の時間に満たない者は、補習を受けなければ進級又は卒業することができない。

（成績評価 ）
1. 各科目について出席率、授業態度、臨時及び定期試験の成績、レポート並びに課題の成績を総合的に勘案し、次項に定める 5 段階評価とする。
2.　S･A･B･C を合格とし、D を不合格とする。
S...100～90 点
A... 89～80 点
B... 79～70 点
C... 69～60 点
D... 59～ 0 点－不合格

（卒業・進級判定基準】
卒業・進級の判定基準は以下の通りとする。
１．各年次総 855 時間（57 単位）以上を取得した者は進級・卒業することができる。
２．上記１に該当する者は卒業・進級判定会議により最終決定する。
３．卒業認定については 2 年次 1710 時間（114 単位）3 年次 2565 時間（171 単位）4 年次 3420 時間（228 単位）以上必要となる

学修支援等

（概要）
担任などの教職員が教育・就職・学費・学校生活のあらゆる面において支援を実施しています。また、担任が学生との定期的に個別面談を実施し、学修状況や要支援事項の確認を行ない、必要に応じて保護者とも連携しています。本校ではスチューデントサービスセンターを設け、専門カウンセラーを配置し、学修に対して困難な学生をサポートしている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
-人（100%）	-人（　　%）	-人（　　%）	-人（　　%）

（主な就職、業界等） 動物園、水族館等
（就職指導内容） 3 年後期に「就職ガイダンス」授業を配置。学校主催の合同企業説明会を開催。 4 年春休みから随時インターンシップ。担任と就職担当の個別面談、履歴書添削、面接練習等。
（主な学修成果（資格・検定等）） コミュニケーションスキルアップ検定
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
9 人	1 人	11.1%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度　三者面談　SSC（スチューデントサービスセンター） 個人面談　学費相談（分納・延納納入）　補習　課題提出		

②学校単位の情報

ａ）「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
エコ・コミュニケーション科（ペット系）	100,000 円	630,000 円	703,300 円	
エコ・コミュニケーション科（陸上・海洋系）	100,000 円	600,000 円	773,300 円	
動物医療科	100,000 円	600,000 円	773,300 円	
エコ・スペシャリスト科	100,000 円	600,000 円	803,300 円	
修学支援（任意記載事項）				

b）学校評価

自己評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.nagoya-eco.ac.jp/school/public_info/index.html		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
卒業生代表、保護者代表、近隣関係者、高等学校関係者とともに、業界関係者により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が行なった自己点検、自己評価の内容を通し、学校運営の改善に活かすことを方針としている。 評価項目としては下記とする ・教育理念、目的、育成人材像について・学校運営について・教育活動について ・教育成果について・学生支援について・教育環境について ・学生募集と受け入れについて・財務について・法令等の遵守について ・社会貢献について		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社名東水園リミックスペポニ 春日井店店長	2023年4月1日～ 2025年3月31日	卒業生代表
エコ・スペシャリスト科 1年生保護者	2023年4月1日～ 2025年3月31日	保護者代表
愛知県立瀬戸高等学校 校長	2024年4月1日～ 2026年3月31日	高等学校関係者
名古屋経営研究会 会長	2023年4月1日～ 2025年3月31日	地域関係者
公益財団法人日本生態系協会 参事	2023年4月1日～ 2025年3月31日	業界関係者
家庭動物診療施設　獣徳会 会長	2023年4月1日～ 2025年3月31日	業界関係者
学校関係者評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.nagoya-eco.ac.jp/school/public_info/index.html		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c）当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.nagoya-eco.ac.jp/school/public_info/index.html

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H123310000721
学校名（○○大学 等）	名古屋ECO動物海洋専門学校
設置者名（学校法人○○学園 等）	学校法人　滋慶コミュニケーションアート

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		59人	58人	60人
内訳	第Ⅰ区分	40人	34人	
	第Ⅱ区分	14人	－	
	第Ⅲ区分	－	－	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				60人
（備考）				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第１号、第２号、第３号、第４号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の５割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の５割以下）	0人	0人	0人
出席率が５割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	－
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	－
計	0人	0人	－
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	－
３月以上の停学	0人
年間計	－
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の６割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の６割以下）	0人	－	0人
ＧＰＡ等が下位４分の１	0人	13人	－
出席率が８割以下その他学修意欲が低い状況	0人	－	－
計	0人	13人	－
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。